

卒業証書授与式



2月27日挙行

21期生 177名



卒業証書授与



過ぎていった何気ない毎日が、
たまらなく愛おしく思える。
みんながいたから、今、私はここにいる。
自分を好きでいられる。
ありがとう。
(卒業生答辞より)

代表 今井 泰志

学校長式辞

(抜粋)
小山 朋子 校長

今後それぞれの人生を歩むなかで「無駄だなあ」とか「なんの意味があるのだろうか」と感じることがあるかもしれません。

でも『無用の用』、取るに足らないこと、無意味だと思えることに、実は大切なことが隠れているかもしれません。例えすぐ結果がでなくても、やったことはいつか必ず芽を出し花開く。無駄なことなど何一つありません。四月から始まる新たな生活においても、豊総での様々な学びをとおして磨いた、柔軟で前向きな考え方で様々なことにチャレンジし、夢へと向かう皆さんであってほしいと強く願っています。

来賓祝辞

代表して、PTA会長 藤本 隆弘様
よりご祝辞をいただきました。

在校生送辞

(抜粋)
代表 生徒会長 小西 なる

先輩方と過ごした日々を振り返ってみると、先輩方は私たちにとって大きな存在だったことを実感させられます。アニメみたいに特別なマントをつけていたわけでも、空を飛んでいたわけでも、町を救ったわけでもありません。けれど、



卒業生退場

そっと寄り添える優しさ、最後まで諦めない志、頼れる大きな背中。それは確かに、私たちにとって憧れのヒーローでした。先輩方のこの光を、今度は私たちがつないでいきます。いつか誰かが不安で立ち止まったとき、先輩方がしてくださったように、私たちが駆けつけられるようになりたいです。

これから、先輩方は三年間の高校生生活を終え、社会という大きな世界に旅立たれていかれます。それぞれの道へ進まれる先輩方の前に、何が待っているかはわかりません。もし壁にぶつかることがあっても、どうか忘れないでください。この学校には、皆様をヒーローだと思っている後輩がいることを。

卒業記念品贈呈

代表 瀧戸 翔尊

卒業生答辞

代表 梅澤 茉白
(裏面に掲載しています)



3年生学年団

保護者、2学年生徒、ご来賓、職員が拍手で見送りました。

何億年、何十億年という地球の歴史の中で、時を同じくして生まれたこと。そして、この広い地球の中で、他のどこでもない、この豊岡総合高校に通うようになったこと。幾重もの偶然が重なり、同じ景色を見て、同じ風を受け、それぞれがそれぞれに夢を結ぶ。真っ白だった高校生活というキャンパスは、見本も完成図もなかったけれど、さまざまに彩られ、案外美しく完成しつつあります。

そして今日、皆さんの祝福に包まれながら、新たな旅立ちの時を迎えられる幸せを噛み締め、この場所で、大切な人たちと最後のひと筆を入れる。

やわらかな春の陽ざしに包まれ、初めて正門をくぐったあの日。期待と不安に胸を弾ませながら、憧れの制服と真つさらな靴で、戦闘体制を整えて教室のドアを開けた。初めて見る顔に圧倒されたけれど、新型コロナウイルスの影響で、行事の中止や短縮、マスク生活が続き、みんなの笑顔を、ちゃんと見ることができなかった中学生の頃。比べると、格段に刺激的な日々が始まりました。遠足でカブト山公園へ。「一番おいしいカレーを作る対決」で、隠し味にチョコレイトを入れたり、シャバシャバでガリガリだったり、どの班も笑顔と笑い声のスパイスの利いた、最高に美味しいカレーができあがった。

待望の沖繩への修学旅行。空港に降り立った瞬間、南国の熱気に、勉強は空の彼方に消えていきました。平和記念資料館には、八十年余りが経った今も、死の気配が漂っていました。民泊で訪れた伊江島にも残るその気配。自分の命の感触を、感じずにはいられません。でも、たった一日だったけど、島人のあたたかさに触れ、本島へ帰るフェリーから手を振った時、目に映る沖繩の家族の姿が、涙で揺らいでいました。

宿泊最終日。ホテルでの琉球ライブで、みんなを肩を寄せ合せて「島人ぬ宝」を歌った。三線の響きと、割れんばかりの「イヤヤーサーサー」の掛け声に包まれながら、こんな幸せな時間が永遠に続きますように、私たちの未来が、美しく平和でありますようにと、心から願った。消灯後に咲く恋の話。山のようなサーターアングギー。両手いっぱいのお土産。深く重い戦争の記憶の上に新しい時間が積み重なっていく。歴史、自然、そこに生きる人達。すべてのものから、大切なことを学びました。

高校から始めたバスケットボール。同じ目標に向かって、がむしゃらに走り続けました。うまくできず、悔しくてうつつむいた時もありました。でも、初めて試合に出場し、初めて点を決めた瞬間、世界が弾けた。先輩や先生が、自分以上に喜んでいる姿に、つらかった日々が、一瞬で報われました。そして、目標だった決勝の舞台。優勝には届かなかった。悔しくて仲間と抱き合った顔は、みんな涙でぐしゃぐしゃだった。

底がすり減ったシューズ。使い古したボール。土を蹴る音。こだまする歓声。鳴り止まない拍手。何もかもがどんどん遠ざかっていく。ずっと一緒にだった仲間と、コートに頭を下げた。そこには、私たちの青春のすべてがありました。

そして迎えた最後の学校祭。クラスのためにバトンをつなぎ、まるでヒーローのように颯爽と駆け抜けていく。のどが枯れるまで声を出して応援した。みんなで輪になって、勝利の喜びを分かち合った。お揃いのTシャツが校舎を染める。バザーで全部売り切った時の達成感、ヤバかった。全力で楽しんで、全力で笑った。「最高だ！」っておもわず叫びそうになった。

私たちは、この場所で、未知のことにぶつかり、感じ、そして考えました。社会の状況、地域の課題、大切な人の気持ち、そして自分のこと。それまで見えなかったことが、一つ一つはつきりと目に

映る。私たちは、少しずつ成長していました。今なら分かります。綴ってきたどのページにも、豊かな人生のかけらが詰まっていたと。このかけがえのない時間がいつか終わりを迎えることは、あの春の日から分かっていたのに、今になって、過ぎゆく時間の速さを、うらめしく思います。もうすぐ、「高校生の私」に別れを告げる。

先生。授業では、教科書の内容だけじゃなく、その外に広がる人生を教えてくださいました。やりたいこととやらなければならぬことの優先順位を間違えて、よく怒られた。悩んでいたときには、一緒に考えてくれた。いつだって私たちのことを一番に考えてくれた。これから先、もっと成長して見せるので、その時はまた会いに来ます。大好きだったその笑顔で、迎えてください。お世話になりました。ありがとうございます。

家族へ。いつも笑顔で、「頑張ってる」と背中を押してくれた。苛立ちに任せて、八つ当たりもした。でも、何も言わなくても、悩んでるってわかってくれた。照れくさくて何も言えなかったけど、今言え。いっぱい心配かけてごめんね。十八年分の思いを込めて、本当にありがとう。注いでくれた愛情を、ひとつ残らず抱えて、新しい世界に踏み出します。ちゃんとした大人になるからね。これからもずっと見守っていてね。

在校生のみんな。残りの高校生活は、本当にあつという間です。今隣にいる仲間を大切にしてください。どんなことも後悔しないよう諦めないでください。高校生活を完走した私たちが伝えられることは、人は多くの葛藤の中でこそ成長するということです。何もなくて後悔するより、動いて後悔の方がずっといい。悩むことや失敗することだって、大切な栄養です。在校生の皆さんが、それぞれの夢に向かって歩いていくことを、全力で応援しています。

お別れです。夢を模索していた私たちを、陰ながら支えてくださった、ご来賓の皆様を始め、校

長先生、諸先生方、事務室の皆さん。そして、この学校で出会った、すべての人に、心より感謝申し上げます。

みんな。朝起きると憂鬱で、学校に行きたくない日もあったけど、行けば、「おはよう」の一声で、身体も教室も目覚める。毎日、はじける笑顔でいっぱいだった。先生のマネをして、似てないのに、涙が出るくらい笑った。ちよっとだけって言ったのに、結局いつも長話になった。どんな時も、笑って受け入れてくれた。大好きなみんなの笑顔が、私を笑顔にしてくれた。過ぎていった何気ない毎日が、たまたまなく愛おしく思える。みんながいたから、今、私はここにいる。みんなに会えたことで、自分を好きでいられる。

ありがとう。悲しそうな顔なんかしないで、いつもみたいに、笑ってお別れしよう。そしたらきつと、また会えるよね。そのときはみんな、思い出話に花を咲かせようね。だから、しばらくの間、「ばいばい」。

この学校で過ごした日々は、皆さんの大きな愛で満たされました。その幸せを噛みしめながら、私たちは今日、旅立ちます。誰一人歩んだことのない、たった一本の、私だけの道。愛してくれる人がいること、帰る場所があること、そして、皆さんの思い出を抱きしめて。

大好きだったみんな、
大好きだった豊岡総合高校、
ありがとう。
さようなら。

令和八年 二月二十八日
卒業生代表 梅澤 茉白

